

氏名	井 上 久
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1007 号
学位授与の日付	昭和53年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	妊娠時子宮頸部浮腫に対する頸部 histamine の意義
論文審査委員	教授 佐伯清美 教授 水原舜爾 教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

妊娠時の子宮頸部間質浮腫の発現機序を解明する目的でラットを用い子宮頸部肥満細胞数, histamine 量及び頸部水分量について研究した。その結果, 子宮頸部の肥満細胞数及び histamine 量は共に妊娠後一時増加し, 妊娠6日目頃に最高値に達するが10日目以降15日目までは急激に減少し, それ以後は漸次軽度減少の傾向を示した。一方頸部水分量の妊娠経過に伴う変化は, 頸部 histamine 量の変化と鏡面像を呈する事実を見出した。すなわち, このことから妊娠中頃より, ある何らかの因子によって頸部肥満細胞からの histamine 放出が亢進し, 遊離した histamine は毛細血管を拡張し透過性を亢進させ, ついで結合組織間に浮腫が生じるものと推測された。さらに子宮頸部軟化物質, histamine 遊離物質及び H_1 受容体拮抗剂等の薬剤を投与することにより, 頸部肥満細胞から放出された histamine が頸部間質浮腫に重要な役割を果たしている可能性のあることを究明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は妊娠時の子宮頸部間質浮腫の発現機序を解明する目的でラット子宮頸部肥満細胞数, ヒスタミン量及び頸部水分量について研究したものであるが, 妊娠中期以降子宮頸部肥満細胞から放出されたヒスタミンが子宮頸部間質浮腫に重要な役割を果たしていることを示唆する知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。